

## 119番のしくみ

火事が発生したり、急病人やけが人が出たりした時、わたしたちは、119番を回します。れんらくを受けた消防署員は、すばやく、しかも正かくに現場に向かいます。火事の場合、消防団の人たちもすばやく集合してきます。救急の場合、おう急しよちをした後、すばやく病院に向かいます。わたしたちが119番を回した後、消防署員や消防団の人たちがすばやく活動できるようにするために、どんなしくみがとられているのでしょうか。

119番を回すと、まず、喜多方市にある広域消防本部の指令室しらいしつにつながります。通信指令室員は、火事か救急かをたしかめ、場所や病人・けが人の様子、通報者の名前つうほうなどを聞きます。その後、指令室からたんとする署に出動指令が出され、現場げんばに向かいます。

西会津消防署では、火事の場合、出動したポンプ車と無線でれんらくをとったり喜多方広域消防本部の指令室にれんらくしたりします。また、町役場にせんよう電話で火災発生を伝えます。町役場から消防団に出動指令が出されます。

救急の場合、出動した救急車とれんらくをとり合い、病人やけが人の様子などを聞き、すばやく病院にれんらくをします。

